

令和5年度クマ類の保護管理検討会 関係団体からの報告

群馬県のツキノワグマ対応状況

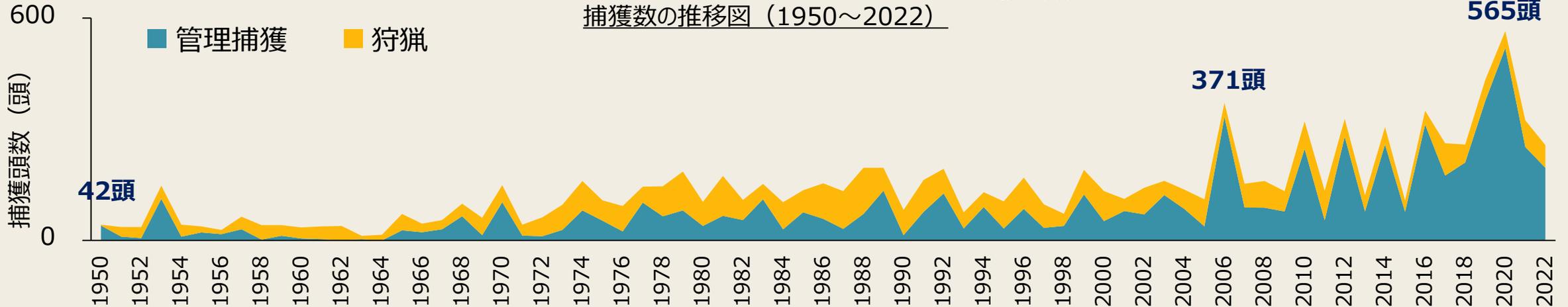
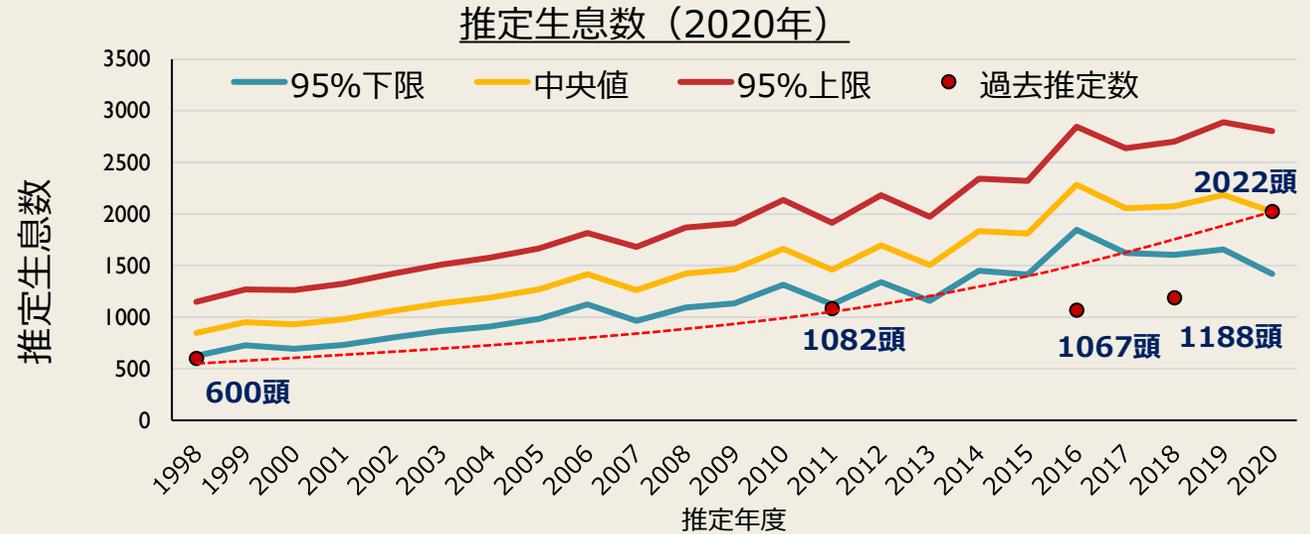
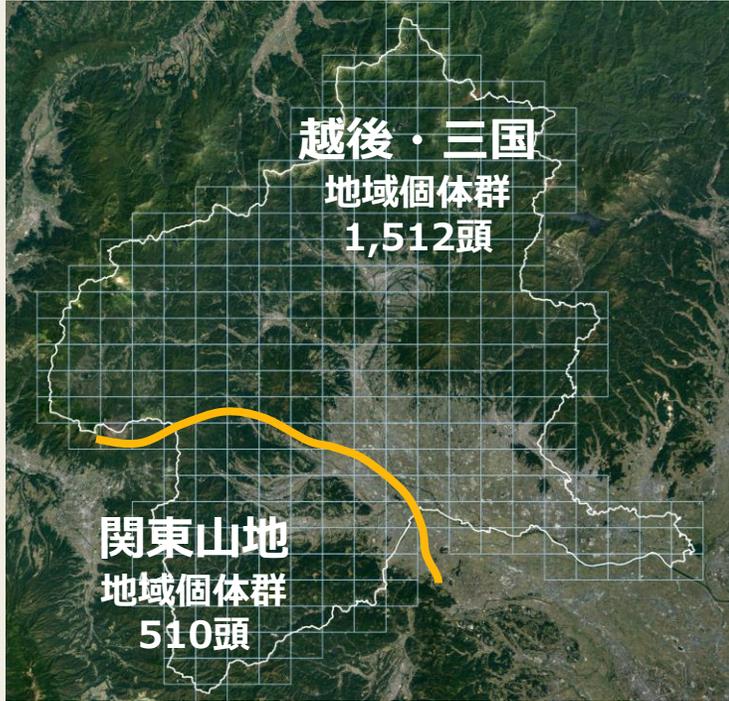


群馬県鳥獣被害対策支援センター

3分動画 <https://www.youtube.com/watch?v=pccPIJt5yIs>

ツキノワグマ適正管理計画

- ・ 生息数 2,022頭 (2020年) 捕獲上限12%
- ・ ベイズ推定 (捕獲数、カメラ撮影頻度、堅果類豊凶)



ツキノワグマの捕獲・目撃状況

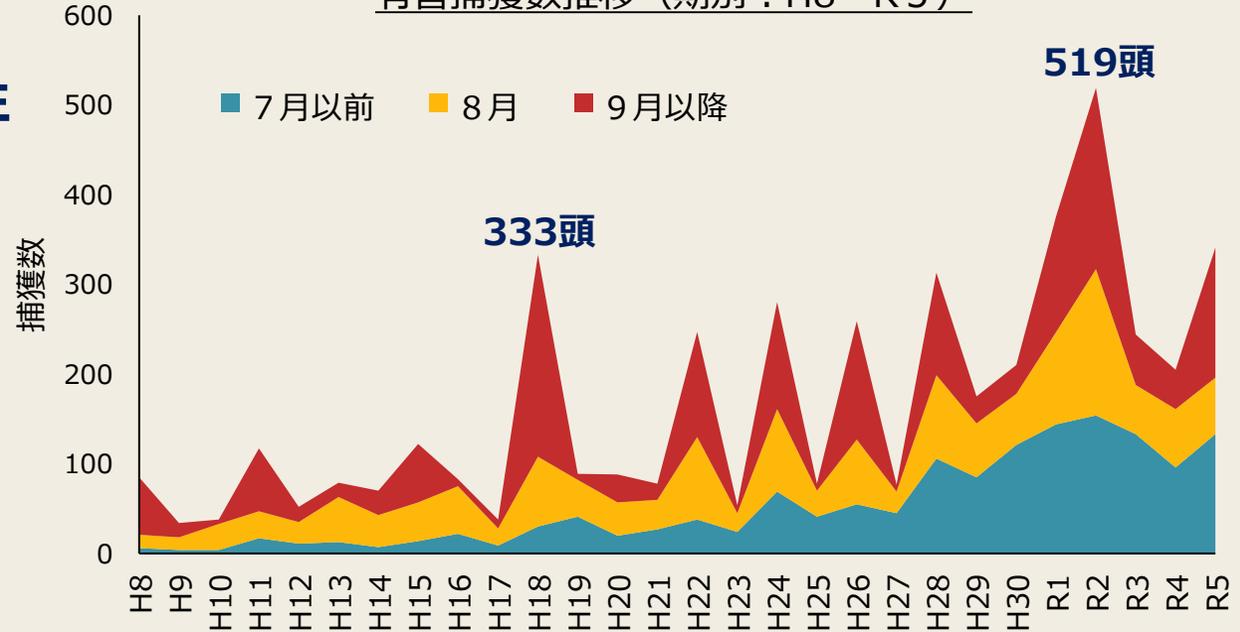
有害捕獲、目撃件数の推移

- ・ H18の**333頭**以降、度々**200頭**を越える年が発生
- ・ 有害捕獲は例年8月の餌の少ない時期に多く発生
- ・ H28以降、7月以前の有害捕獲が増加傾向
- ・ 目撃は例年7月に多く、不作年は11月まで継続

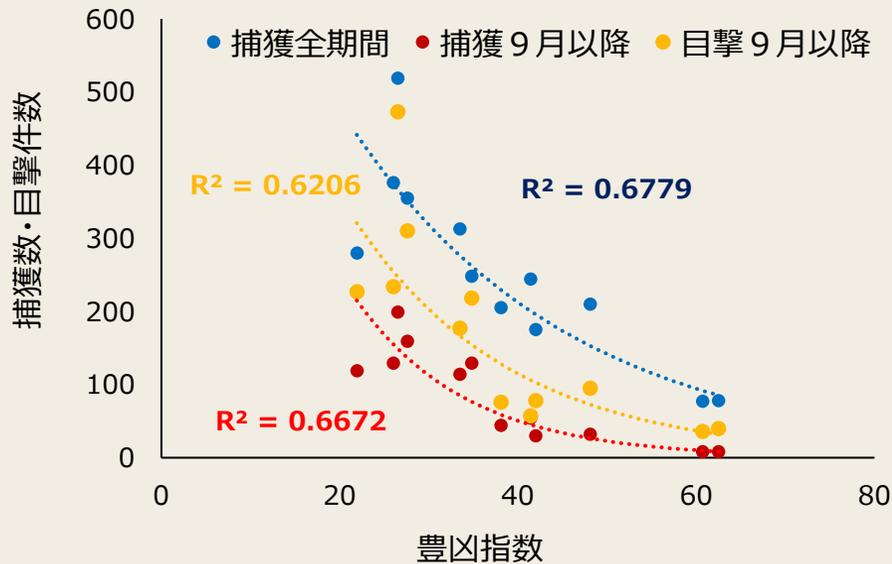
捕獲、目撃と堅果類豊凶との関係

- ・ 豊凶との相関は高いが、年々相関関係は低下

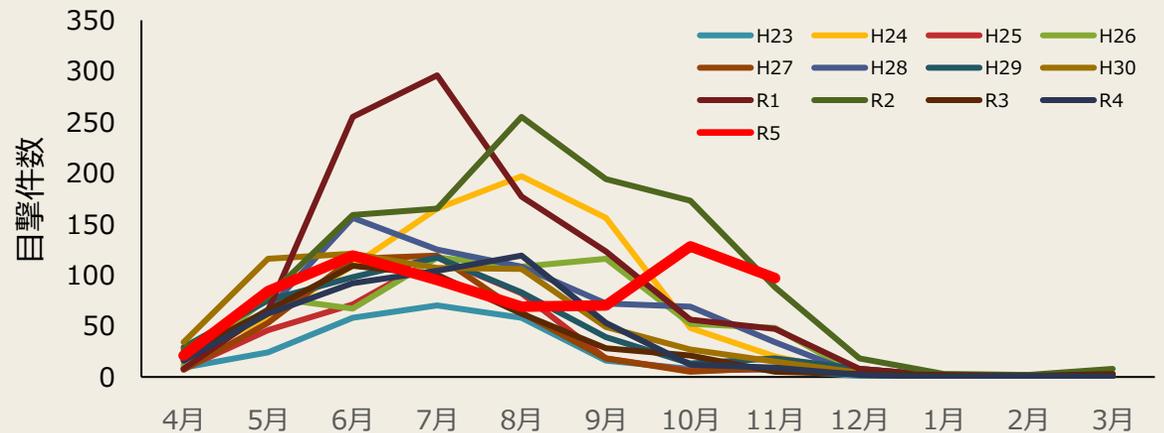
有害捕獲数推移（期別：H8～R5）



豊凶との散布図（捕獲・目撃：H24～R5）



目撃件数推移（月別：H23～R5）



これまでのツキノワグマ対策

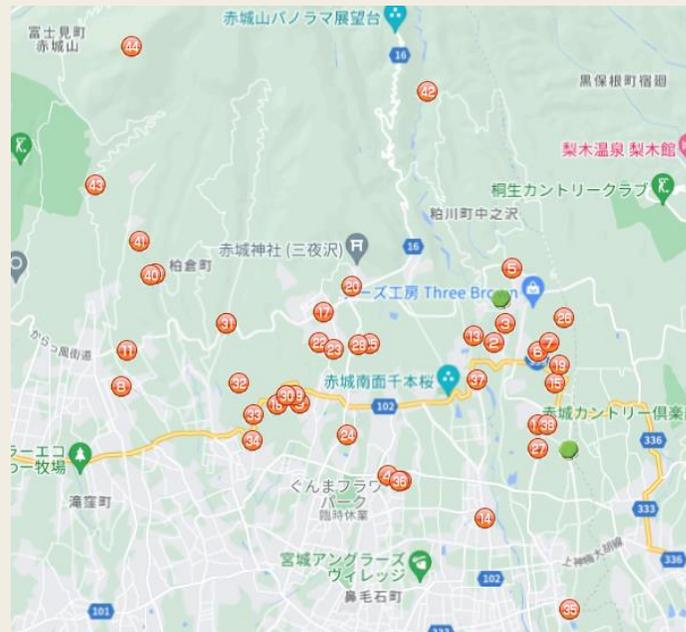
□ 集落づくり事業、実施隊研修等における研修の実施

□ 前橋市のクマ対策事例

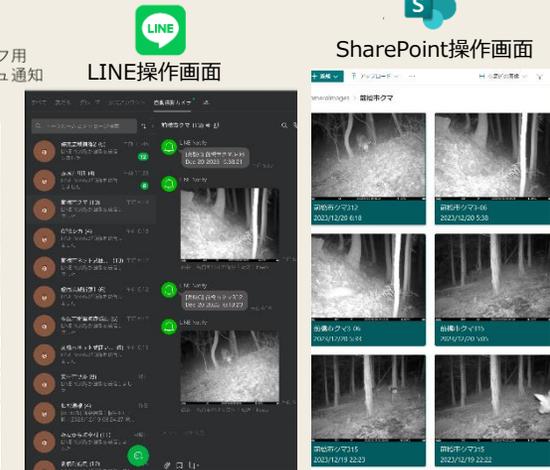
- ・ R3のクマ人身事故を踏まえ、「クマ被害強化月間」を設定
- ・ 市職員、猟友会によるパトロール、見回りの強化を実施
- ・ 河川周辺や森林内の下刈りにより、動物の出没抑止
- ・ 鳥獣センターと連携し、IoTカメラによるクマ出没監視を実施



クママップ (さーちずまえばし)



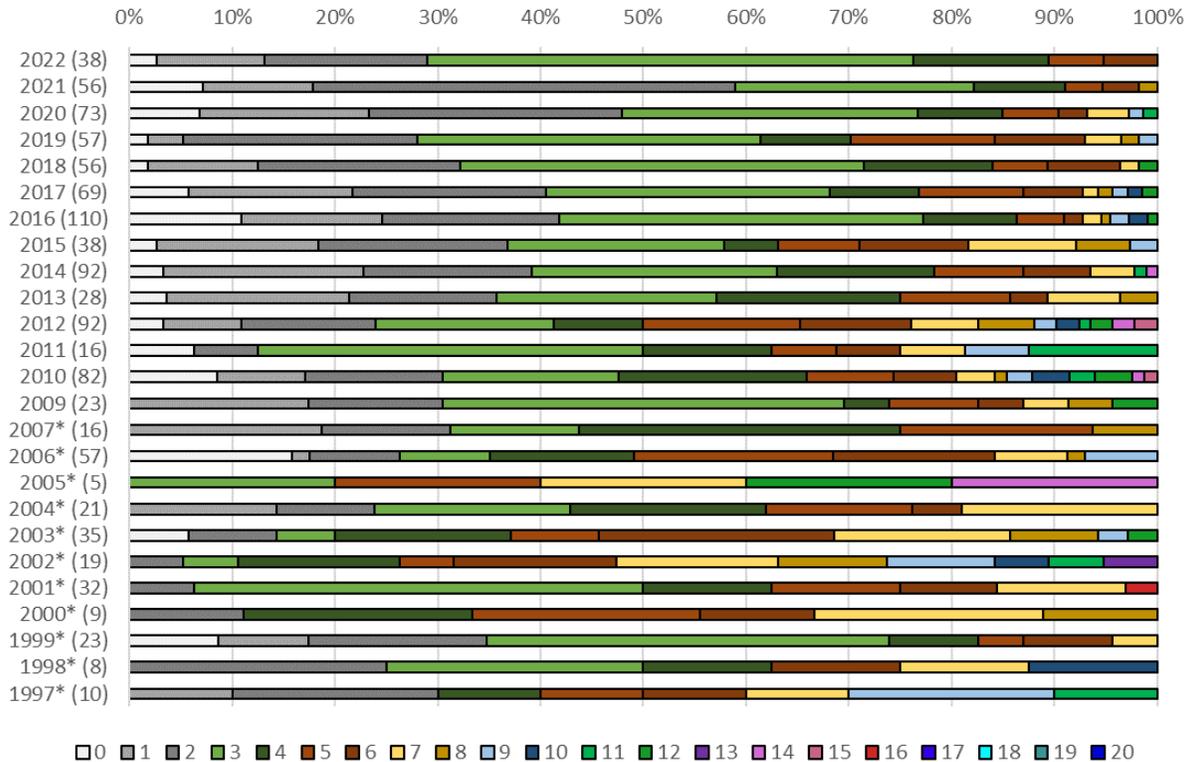
□ IoTカメラによるクマ監視 (鳥獣センター独自システム)



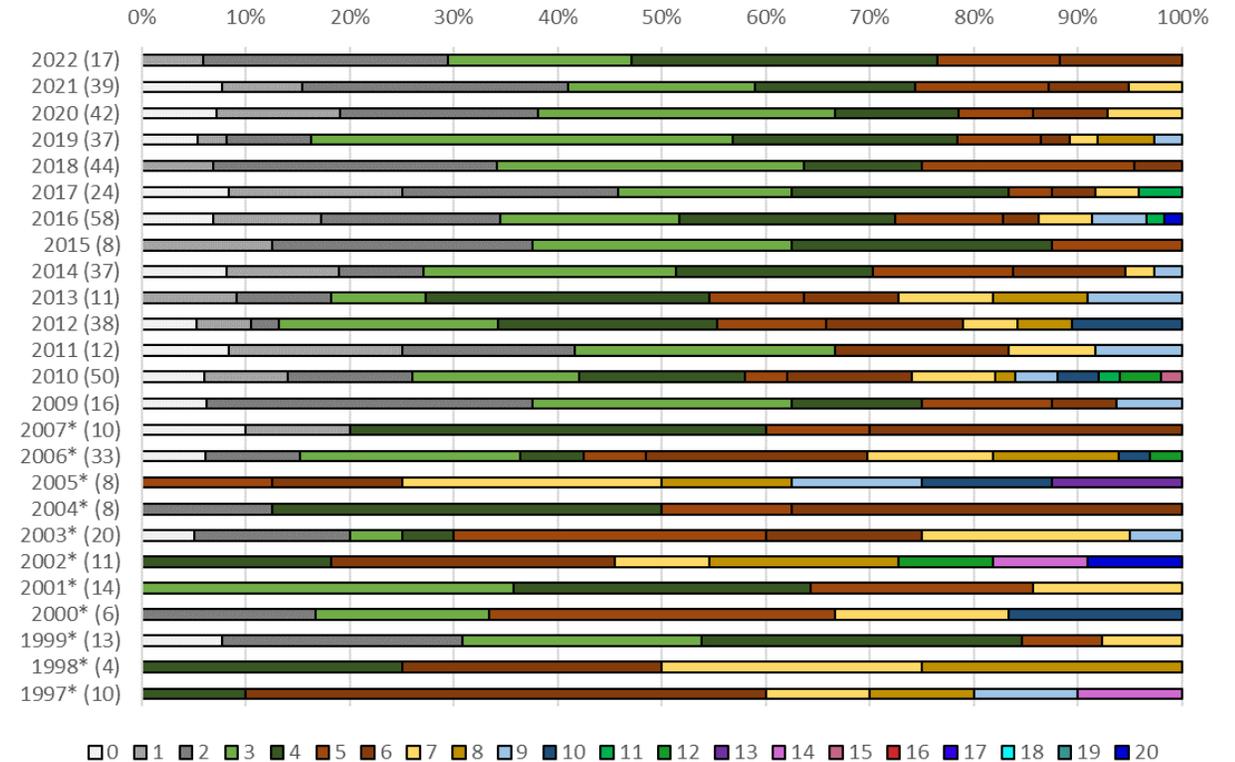
自然史博物館による個体群把握の取り組み

- ・ 有害捕獲個体の検体提供の協力により、自然史博物館で年齢査定、胃内容物分析等を実施
- ・ 分析データの長期蓄積により、個体群の年齢構成把握、遺伝子解析など様々な課題に取り組む

群馬県ツキノワグマ検体の年齢構成の推移：オス



群馬県ツキノワグマ検体の年齢構成の推移：メス

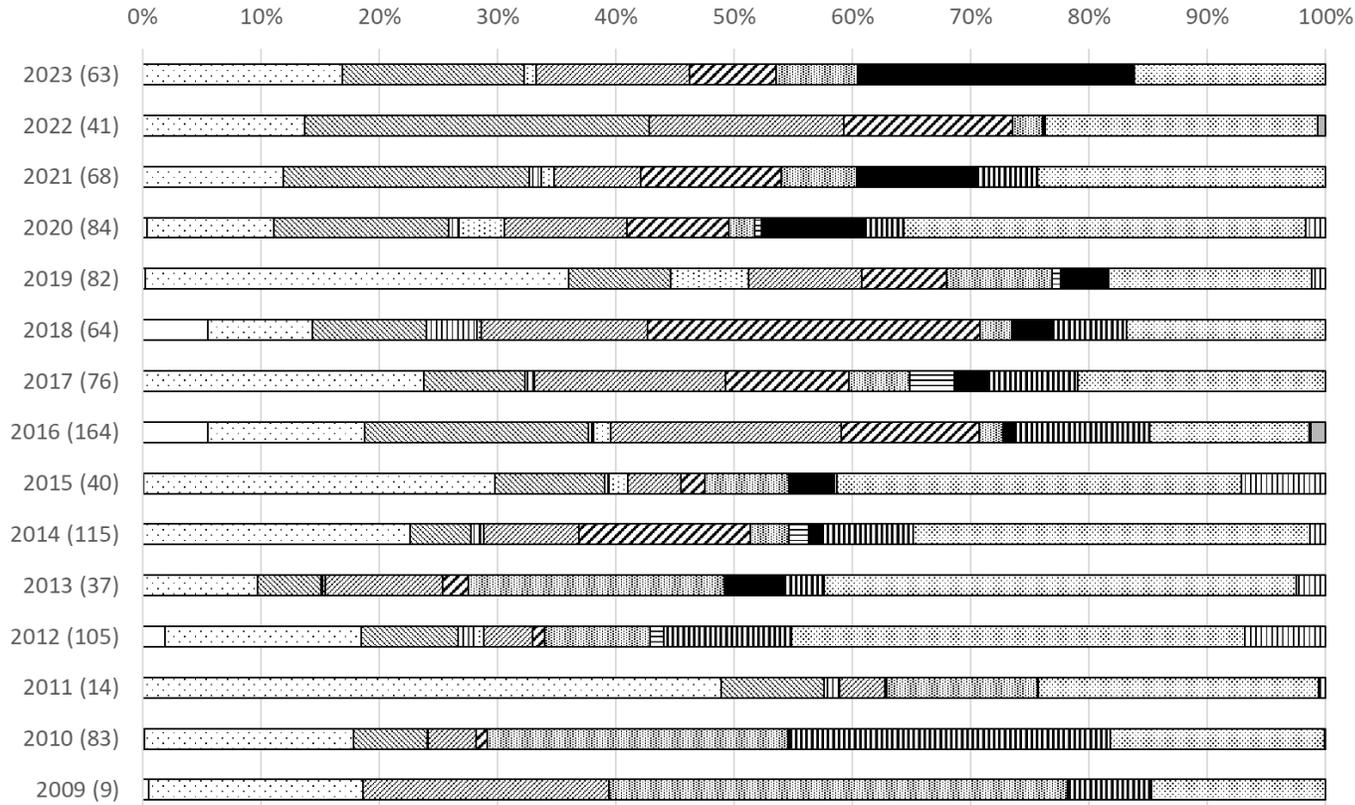


*自然環境研究センター報告書より引用
**カッコ内の数値は年齢査定できた検体数
年齢査定はセメント室年輪法を使用

資料：群馬県自然史博物館

自然史博物館による個体群把握の取り組み

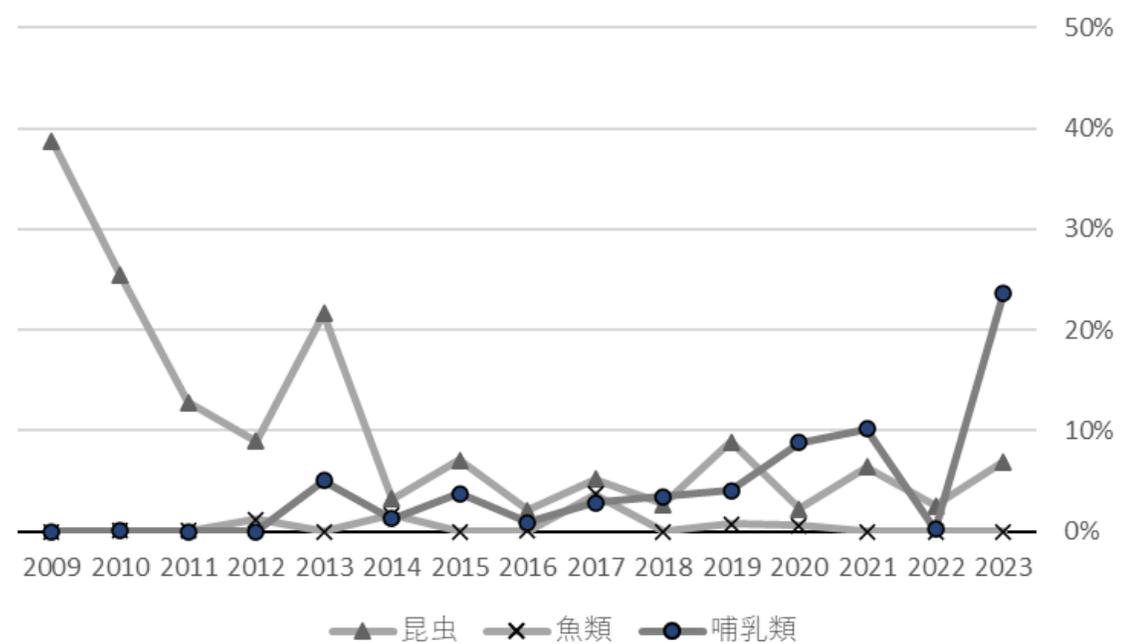
群馬県ツキノワグマ検体の胃内容物を用いた食性分析結果



□ササ □草本 ▨広葉樹 ▨針葉樹 □木片 ▨液果類 ▨堅果類 ▨昆虫 □魚類 ■哺乳類 ▨果樹 ▨野菜 □イネ □その他
タケ 穀物

*カッコ内の数値は胃内容物が確認された検体数
**2023年度は11月末までに搬入された検体の分析結果
ポイントフレーム法により食物カテゴリー割合を算出

群馬県ツキノワグマ胃内容物の食物カテゴリーに含まれる動物質食料割合の推移



**2023年度は11月末までに搬入された検体の分析結果

資料：群馬県自然史博物館

これからのツキノワグマ対策

□ 計画へのゾーニング管理導入

- ・ 管理計画の着実な運用（個体群の継続調査、被害対策の実施、効果評価）
 - ・ ゾーン別（「生息地」「防除地域」「排除地域」）に管理の方向性を示す
- ① 人側対策（クマを排除し人身保護、環境管理で出没抑止、資源と生活圏の保全）
 - ② クマ対策（生息地の保全、防除地域は人が管理しクマ渡さない対策）
 - ③ 捕獲対策（ゾーニング別捕獲対策と捕獲の考え方を明確化）

□ ツキノワグマ対策のための仕組みづくり

- ・ 出没に対応するための体勢構築
出没マニュアル作成、出没対応研修の実施等
- ・ 科学的データの収集、整理
- ・ 環境管理の実施、維持方法の検討 など

